

歴史都市アユタヤにおける住民と観光客の水害に対する認識分析 An Analysis of Flood Risk Perception for Tourists and Local Residents in Ayutthaya

○水田 哲生¹, チャイワン デンパイブーン², パンティータ タンワッタナ²,
アイスーン ラウングラタナーンポーン³
Tetsuo MIZUTA¹, Chaweewan DENPAIBOON², Puntita TANWATTANA²,
I-soon RAUNGRATANAAMPORN³

¹立命館大学 歴史都市防災研究センター

Research Center for Disaster Mitigation of Urban Cultural Heritage, Ritsumeikan University

²タマサート大学 建築計画学部

Faculty of Architecture and Planning, Thammasat University

³タマサート大学 大学院建築計画学研究科

Master course student, Graduateschool of Architecture and Planning, Thammasat University

Ayutthaya, old castl of Thai, is a historical district with several Buddhism monuments and temples. Ayutthaya was resistrated as world heritage by UNESCO, and many people are visiting this area from all over the world. Many Buddhism monuments and temples stand on along side and inner island of Chao Phraya river, thus, flood occurred frequently in this area. Tourists and shop owner will be sensitive to flood and loss from flood. In this research, we analysed people's recognition and behaviour for flood. Questionnaire survey's targets are foreign tourists and domestic tourists, and local residents.

Key Words : Ayutthaya, flood, sightseeing, tour, Travel Cost Method

1. 研究の背景

(1) 調査地の現況

タイ王国のアユタヤは長い歴史を有する古都であり、仏教遺産と寺院が多数存在する、歴史的に稀有な地域である。国際連合教育科学文化機関（UNESCO）は1991年にアユタヤを世界遺産登録し、世界中から多くの観光客が当地を訪れている。

この地がかつて栄華を誇ったのは、海洋と山地のあいだに位置し、水運に恵まれ、他国との交易に有利であるという地の利に基づいている。

アユタヤとは現在のチャオブラヤ川とその支流に囲まれた中州内および周辺地域を指している。沿川にはかつての仏教施設などが多数位置しているが、周辺地域はたびたび浸水被害を受けてきた。

また中州内および周辺地域では土地利用規制・制限が定められているものの、限られた土地に商店や民家が現れている。無堤地区も多く、したがって水害への備えが必須と思われるが、現状では万全な備えとはいえない。

(2) 本調査の目的

近年に限っても、1992年、1995年、そして2006年に大規模な水害が発生したという経緯から見ると、水害常襲地域として備えるべきことやものが欠如しているのではないかと考えられる。その理由の一つとして、水害というリスクに対する認識が少なく、安全のための投資ができないというモラルハザードが挙げられる。

一方で当地は有数の観光地であり、諸外国から訪れる観光客は安全情報に敏感であると考えられる。

今後、周辺地域でますます増していく観光関連商店や住民の水辺への接近という要因と、地球温暖化の影響でチャオブラヤ上流地域での降水量の増加による要因とから、多発する恐れのある水害というリスクに対し、住民

と観光客がそれぞれどのように理解し、どのように行動するべきと考えているのか、実際の声を「旅行費用法」（Travel Cost Method）に基づくアンケートおよびインタビューによって尋ね、得られたデータを主要因分析した。

2. 調査の概要

アンケートは2008年9月20日に、著名な寺院であるWat Phra Sri Sanphetを中心とする保護地区内で外国人観光客30人、タイ人観光客30人に対して行い、さらに詳細な内容を補足するため、口頭で聞き取りを行った。

地元住民に対しては、一対比較とするため、同じ様式の質問表によって聞き取り調査を行った。調査対象住民は中州内の各地域から平準的なサンプリングとなるよう配慮し、40人に対して調査を行った。

3. 分析結果

旅行費用法に基づき、「1人・1日あたりの消費金額」「訪問回数」「訪問人数」「旅行にかかわる日数」という四つの変数からアユタヤのレクリエーション価値を求めた。この作業により、水害から守るべき古都アユタヤの価値を明示する。

なお詳細な分析結果はパネル発表時に譲ることとする。

謝辞：

本研究は、日本学術振興会「若手研究者インターナショナル・トレーニング・プログラム（ITP）」の「文化遺産と芸術作品を災害から防御するための若手研究者国際育成プログラム」（立命館大学COE推進機構）によって2008年6月20日から9月27日までタマサート大学建築・計画学部に在外研究の機会を与えていただき、その際の研究の成果の一環として公表するものである。